

(一) 國家社會黨の黨勢擴張調査會狀況

國家社會黨聯盟に各地支部創立の爲黨本部より小池田邸、赤松五百嵐、安藤盛の三氏東歸し、縣下主要の地に於て即ち八幡市（七月十三日離衆五五〇名）飯塚市（七月十四日離衆二〇〇名）後藤寺町（七月十五日離衆二〇〇名）小倉市（七月十六日離衆二〇〇名）門司市（七月十六日離衆四〇〇名）の各地に該社會を組織して黨勢の擴張に努め相當の反響を興へたのであるが、本一面に於ては小池田邸氏が社風黨より當選した代議士であることや、藤井氏が維新黨の副國家社會主義を主張したとすや、社民黨と國家社會黨とが反目してゐる折柄、例々六月三十日夜下關着列車にて同時に到着し

た藤井、小池の兩氏を組織した兩派の連中が、遂に藤井と衝突した事件があり、加ふるに社民黨が國家社會黨の調査會をなした爲、八幡、門司等の該社會に限り合ひから被選挙者を差控して兩派の關係が一層惡化するに至つたので、今後兩派の抗争は勢大氣を放んで注目すべき事となる。

即ち今回最も同争の激しかつた八幡、門司兩市に於ける該社會狀況は別紙の通りである。